**平成３０年度南丹市一般会計・特別会計決算の概要**

**平成３０年度決算　一般会計の概要**

**歳入　　２３１億２，８９８万８，９１２円**

**歳出　　２２１億７，１４７万４，３４２円**

令和元年度９月市議会定例会で認定された『平成３０年度南丹市一般会計・特別会計決算』

の概要についてお知らせします。

平成３０年度の一般会計決算額は、市に入ったお金(歳入)が２３１億２，８９８万８，９１２円、

使ったお金(歳出)が２２１億７，１４７万４，３４２円で、差し引きすると９億５，７５１万４，５７０円

となり、この内から翌年度への繰越財源３億７,４７１万１，０００円を除いた５億８，２８０万３，５７０円

の黒字となりました。

　ただし、その歳入には、前年度からの繰越金７億８，６７４万１，２５６円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が９８億

３，２７８万９，０００円、歳入全体の４２．５％を占めています。続いて市民税や固定資産税などの

「市税」で４１億６，４９７万４，４４１円(１８．０％)の順となっています。

歳出は社会生活に必要な福祉施策経費の｢民生費｣が６０億１，５５３万９，７１７円と最も多く、

歳出全体の２７．１％を占めています。続いて｢総務費」が３２億６５６万５，４０７円　(１４.５％)、

｢公債費｣３２億５８６万３，２２９円(１４．５％)、｢土木費｣２５億２，０２２万１，３７９円(１１．４％）と

なっています。

そのほか、６特別会計（企業会計は除く）について、すべて黒字を維持しております。

本市は、６１６．３１平方メートルという広大な市域を有しており、多様な市民要望に応え、

社会資本の整備を積極的に進めてきました。一方でこれらの施設整備などに伴い多額の市債

を発行してきた結果、その償還のための公債費や景気の低迷、少子・高齢化社会などに対応

した福祉施策拡充のための扶助費などの義務教育費が増加し、財政構造の硬直化が進み厳

しい財政状況となっています。

このような状況の中、持続可能な財政基盤を確立し、将来に希望の持てる南丹市を実現する

ためのまちづくりを進めてまいりました。